

1. ほ場の準備

(1) 通排水機能の確保

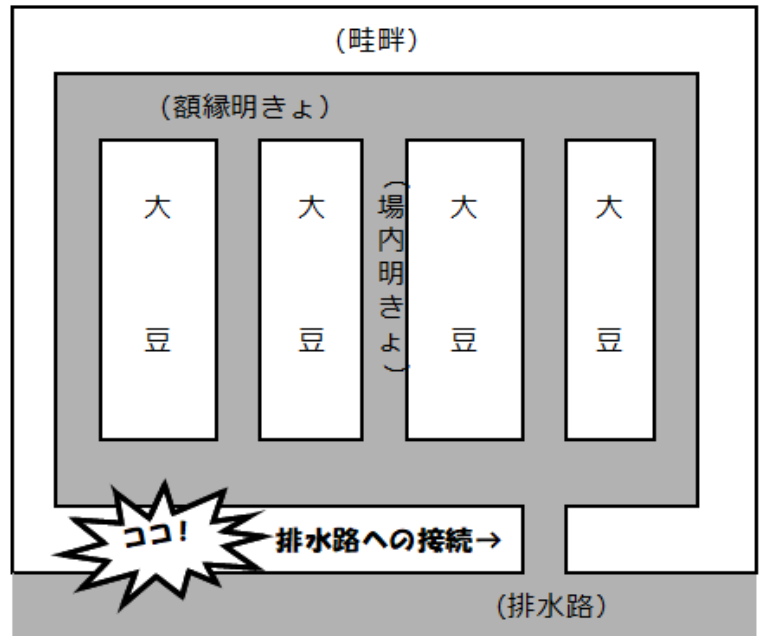
- ◆ 出芽期は短時間の冠水でも発芽率が低下します。
- 暗きよが通っていても、通排水のための明きよは必要です。
- 排水路への接続を確認しましょう。

○明きよの機能

- 表面水の速やかな排水路
- 干ばつ時の給水路

○明きよの深さ：50cm～80cm

○明きよの間隔：10m～30m



(2) 土壌 pH と碎土率について

- ◆ 土壌 pH の目標： pH6.0～6.5
- 水田からの転換畑で pH が低い場合は、炭カルや苦土石灰を使って調整しましょう。
- ◆ 碎土率：
 - * 直径 2cm 以下の小土塊の比率が 70%以上になるようにする。
 - * 地表面には直径 3cm 以上の土塊が混ざらないようにする。
 - 碎土が不十分だと、種子が乾燥しやすく発芽不良となります。
 - 大きな土塊が多いと、土壌処理剤の処理層がきれいに形成されません。

(3) 基肥の目安

- ◆ 基肥は根粒菌が定着するまでの初期生育を補います。
- 土壌中の窒素濃度が高いと根粒菌の着生が悪くなり、初期生育以降の生育に影響します。基肥は大豆の初期生育を確保できる最少量を施用しましょう。

【施肥例 ①】

- 基肥 <大豆化成 550> (N5-P15-K20%) 現物量 40kg/10a 程度
- 追肥 <LP コート 40> (N42%) 現物量 12kg/10a 程度 (追肥時期：最終培土時)

【施肥例 ②】

- 基肥一発 <大豆専用一発 522 号> (N15-P12-K12%) 現物量 40kg/10a 程度 (基肥一発の場合、追肥は省略します)

2. 播種

◆ 各品種の特性に合わせた播種様式で、適期に播種しましょう。

表 1 品種別播種様式

品種名	栽培様式	播種期	播種量	播種様式		栽植本数 (本/㎡)
			(kg/10a)	畦間	株間	
ミヤギシロメ	標播	5月下旬～ 6月上旬	3.8～5.1	75～80cm	20～25cm	10～13.3
タンレイ	標播	5月下旬～ 6月上旬	3.6～3.9	75～80cm	20cm	12.5～13.3
	晩播	6月中旬～ 7月上旬	5.2～8.3	70～75cm	10～15cm	17.8～28.5

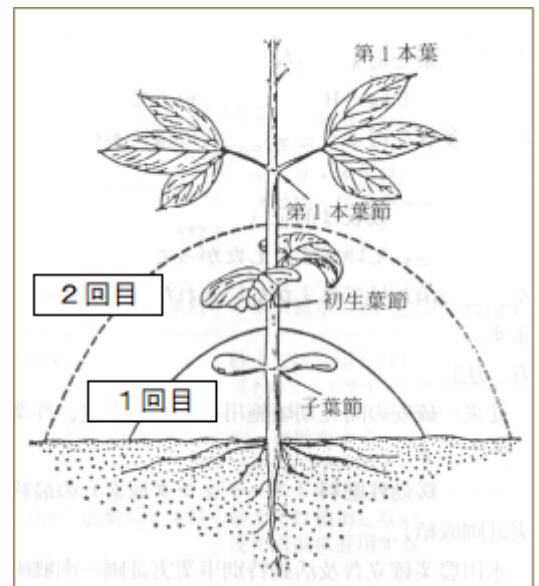
※「みやぎの麦類・大豆栽培基本方針」より引用

- ミヤギシロメは蔓化・倒伏しやすいので、地力や前作等のほ場条件を考慮し、播種量を減らす、基肥を減肥する等の倒伏軽減対策を行いましょう。

3. 中耕・培土

◆ 大豆の生育向上に向けて、適切な時期に中耕・培土を実施しましょう。

播種時期	回数	タイミング
普通栽培	2回目安	①大豆2～3葉期：子葉節まで
		②大豆6～7葉期：初生葉節まで
晩播栽培	1回目安	大豆5～6葉期：子葉節まで

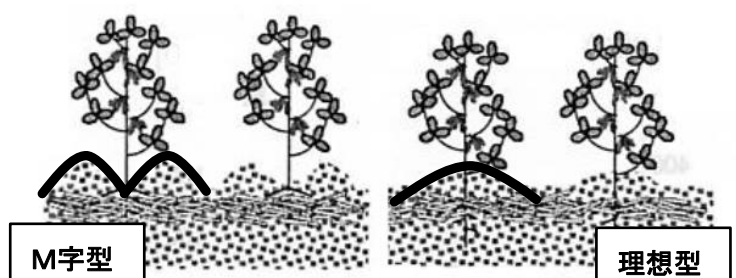


○中耕培土の効果

- 培土部分からの根の発生
→養水分吸収、根粒菌の窒素固定増加
- 倒伏防止
- 除草効果
- 通気性の改善

* 遅い時期の中耕・培土は、主茎や分枝の損傷・断根により生育に支障をきたすため、遅くとも開花の10日前までに終わるようにしましょう。

* 株元に土が寄らないM字型培土は、湿害が起きやすくなるなど、悪影響を及ぼす場合があります。理想型（図の右側）になるように注意して作業しましょう。



4. 病害虫・雑草防除

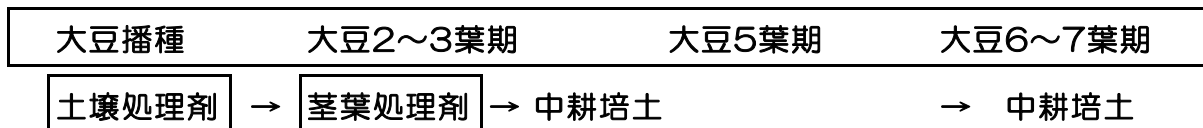
(1) 病害虫防除（播種前～生育期）

- 前年に発生した病害虫（紫斑病、茎疫病、黒根腐病、タネバエ、アブラムシ類、フタスジヒメハムシ等）を考慮して、**種子消毒剤**（キヒゲン、クルーザーFS30、クルーザーMAXX等）を使用しましょう。
- * 特に排水不良のほ場では、種子の腐敗を防ぎ出芽を良くする働きがあるので、殺菌剤を含む種子消毒剤を使用しましょう。

(2) 雑草防除

- ◆ 大豆雑草防除は【播種後の土壌処理剤】→【生育期の茎葉処理剤】の体系防除が基本です。

＜体系防除の基本＞



- * 雑草の発生状況に応じて、【非選択制茎葉処理剤の畦間（畦間・株間）散布】【手取り除草】を実施しましょう。

！！難防除雑草にご注意ください！！

- 近年県内で、アレチウリ、帰化アサガオ類、オオブタクサ、オオオナモミ、イチビなどの難防除雑草の発生が増えています。
- 難防除雑草は、多発すると防除が非常に難しくなります。見つけたら早急に対策が必要です！

～難防除雑草対策の鉄則：①入れない！②広げない！③すぐに対策開始！～

- ① 難防除雑草を知ること。ほ場周辺に目を配ること→畦畔などほ場周辺から侵入します
完熟堆肥を使用すること→未熟堆肥には発芽可能な雑草種子が含まれる場合があります
- ② 雑草の種子は「機械作業」でも広がる場合があります。農機具の洗浄など、リスク低減に留意しましょう。また蔓延ほ場から周辺ほ場への侵入に注意しましょう
- ③ 侵入初期に、薬剤処理・手取りを含め徹底的に防除。蔓延してからでは取り返しがつきません

見慣れない雑草を見つけたら、普及センターにご相談ください！

農薬危害防止運動実施中（令和元年6月1日～8月31日）

『使用前には必ずラベルで作物名・使用方法を確認！！』